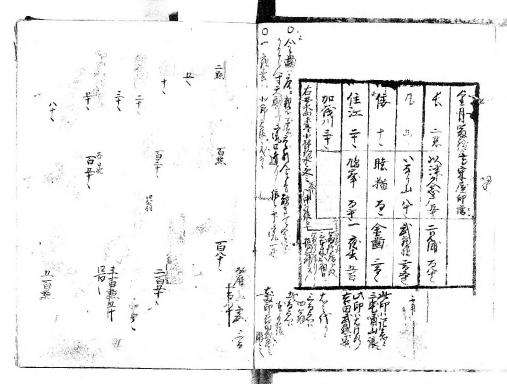


THE PARTY OF THE P



八人富姓產熟

魁

歌旨 物五ケアリ 雕 物

人ト云ニニ流アリー流 六右ノ如ク三熊野又一流 松玉津島 道八 人八三熊 住吉 B

観念スへキ也 五字八内一字 贼物二出八五社人内 一字露頭

八人八人丸也此五神其日ノ席ラヨトリエフ動

三字返音 三字中

小

財 物之事 社ニアティ

共二上賦下賦ニハセス二形三灰ホドハ右ノ四品可有 田字上下路上照下照如常千夕十二時八十天

一字露頭八日习火 名三菜等也

二字返音八 夏》網 花》绳等也

三字中略八 霞》纸 アンラ雨等也

一字重轉 四字上下略八王章习松 苗代ラ橋等也 二字返音三聲ラヨミニた例、辛ラ鞭等也 詩ラシ、夫ラヤン

二字除篇

松ラ公 酒ョ酉 アラ火除篇二八

三字除篇 扇刃羽等也 三字上器サカリシカリ等也 四字中二字器。らグレスラ 冠ットルラモ篇二提及也成/序/如こ ウス等也 除篇にあたナリ

也常一百韻三上雖下雖也 法ノ四ケッ用ルノ、千夕ノ時三三阪ホド右ノイロくこん 一字重轉引以下八部 錯ニテノフン 連哥三本作 六字中四字略 カタジケンショカレギ也

敗物、第三近,字》吟味及,發力,中計"不限也

ならからえま

こ随切とい物ノ名ラニワ云弦也三度に切りる也 入月新、華のお風を乃あ たいひと柳いかるとまれはん 三名中气之

大としの事

香地の妻り あるたのは 名ういぬ風のため、秋の月 あかたうとまるのとろもはる 色去の一の事

はあることのしかりからるよれし次大きり といしるろしるしえり 双至の一十八事

今 マとし かかし まし 3 6 东

女等のなるななのし也かなかるかり お本の一乃事

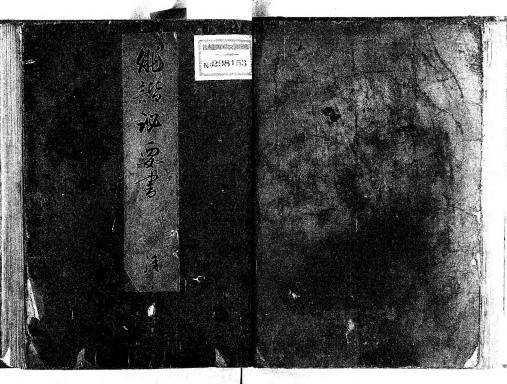
ター ちょう ちゃく ちゃ 禁いみなままれしてあるかのあるのり

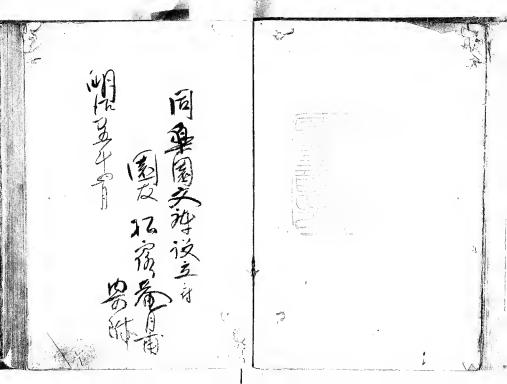
や疑やして後してわる さ去のしてありいかありにましりぞ にをままの~にていてありかありを改 食わのかなり 現生事本い見から去いか用 お人、たようならんなか えっとよをらいで はりれれの名 えてんちりやこれるのを るでるれりやからとゆううり あきしはずやるのろけれる あるししやるりからいん みをまなれれしららとしてものね あるしましめいきやじ部の なりるとろんすしらん 里ととしいけんくる山あん あナかえぬ山ぬうし、新る 凌ありの事 変わ こまかくま 二字切める 年のなる まなのこ 未至了! にもテー

かれると物をしくかっというちん 元表表了 之残一 きは名といいとうあるとのてそれのちゅうな 白ものちあり 白えのかうするななてわれる 主流、浴、香花、石颜は在心去孩子切 るるこの多とう 机名了人可人会所多人 の十られまとうつ れるるまるまときている 155 ていすひょくしむらしぬてのく 会等逐切者中 てます 一いるなのは降とはくとこり 一次とするはなるないとう いてあるなしれる人があ 次のろるをで 子をなるころ 文元智时

真い大体に多くなるころへ んのまするるときすりかいさるろう きんえなるくていらりゅうなるか きなり るかけけを随るころ同えても 公配的女人作,多 老人 アダ 1 きたり人てるかとえてもも 10年ようちましてる きんの限いるとうえたりろう されかり一を見すめたりを易 長死た後、すずの雅後有人~ すめの連維うしょうろうけいちて なめい ちる良地をもしたし 可服とる 郭 文教则流 とうてる 小路谷井 スコ てなるとから よ方人ち込と 城、古宝

是是是 が水本





8 S O

其内文ないない 支力で必為ある一、海電光日 二年海金るなるしてる相名的しと 成る産の頃か月の木はしれる経風 のすとある、柳花の生傷でありれる 社州花常物 動と後書かしている意見白一条一部にて世かようのえれる 三年日 を云亭俊えひる海が見す してき人のなることかっていて 下のろとていずのうとてらればあると 十二八年行天多八十八日十五百八 一句にて白松の主べろるなりり くていいりとするしあるときか 上の白年一多人们了了り事教 うくては教して事からな人を アナウレシュニシアイヌオ ニイハリノツクハテスキテイクラカ子ヌ ~れ撃とちょあから あと後書かしています

と下位としてるわり一個山山かま方 はできたなるとろうとつようしきる 京極面中で連然のはを有しまだの 奥他為して死後ってるりとうって るなるのいとなれれるとま 遅ょむく 名僧為文永花の遊谷县的の时九分 後のなんとおかとりなして宝隆 いることはありる家地名てゆい いるけかい いちるとはを下れているゆりしていろ くではす後上京的連年の大坊と をしてるいるだけるとれるしめい 印作庫のまるとうろのける きた丁意味了 降水子 子程があとえれ、猛鬼つくし花云 を分十山地は花をしく りきんん 有此之仍同小了人九 御丝 きなる

まだすかるとうすこうしいろを使る 福用公式各個人都只如川宝看 きれるころとをとしてかけるると 今随い此天有一大子のはある は中教教の家色京花なる山谷 ととうときれなどまをひのまな 教工人任何之婚了に好了之班谁以 それ、き郷なからわえしてる男人 心だのようりょうとうとくちろく のとめいかちをうし 我を至く一社一切のとのころもつる ~ 心经秋で生きるが三のあるかろう もそしきももろもろうしんとう 白ま りして心後のふるといったます り国活る郷港の名事とかく子は 死よななる人行情 してんなくなるかられて きっとほうもうきのうか 一色です~につと後で多 经艺 玄石 楊然

佐年もなかつくらばのこ 加るをからう ある頃のそときんっているのない るるかつくるはるをなりますり」った 石のを加えーそろけるか かの主め かんっとうるるゆか 中二な一村子は一次かれ とありではあるより み回とつけずいる面を 大阪もあるあのをちと いえれまするけるもあわられ そんろうらかなり やいの花はくまっと いてきなとあけていなる のなばる の到了聖代院 上加り ものから あまって

一十九十年十十十 虚美之事 をまばれる 是それなれないのとはうしてきた たをまするかんとしてしたをうの されているころりでを屋すりけ ナーいけるの教としてたのサーバカ えるゆっている屋のいるして りかりに震力してまま えかんといかとうなってを産する たしのちがったなもかいてうし そべあるの初ますいりてからろくだな クエーなないないのころうなち かくけいくおなのしいかん そいわしてあったのない いるのうれのはま ものなの

いたの大後りりではこれれていた ういますらの 竹谷をからしてくてみとからな 大るからからしていりくとつけれるとしているとするる しなけかなる 何りのし かされるねーてすりのころ 身のういかしらとうこと 他するからしつうか のちろけりる文作りるなり せんりょうかとりくをおっていり 七一つのなるな よけつてはされいもはえし 行かっというだと 一のまっていろんろう 之 しるつてせるい 一了了

大三でるの アムであてる 起意品等 人りるかのちれんかして とな るおれれるまのること 林文 の吸行 てまると らなのから之服 水水 主をはり